

## 2019年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用した検証です。各学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

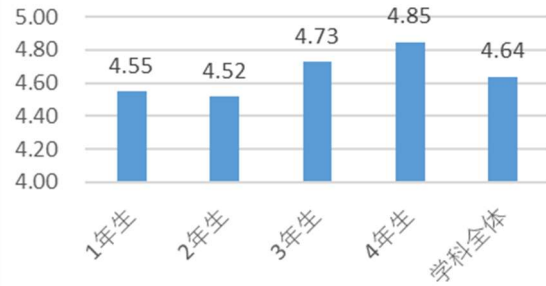
学科・研究科専攻名 福祉心理学科

調査項目は以下の11項目である。

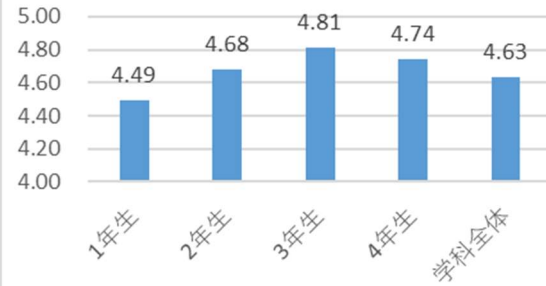
- ①基本的スキルの育成：リエゾンゼミⅠを通して、レポートの作成やプレゼンテーションの仕方、ICT（情報コミュニケーション技術）の使い方（図表作成を含む）を学んでいる。
- ②人間関係づくり、心身の健康：リエゾンゼミⅠを通して、心理学を踏まえた人間関係づくりや心身の健康の向上に取り組んでいる。
- ③総合基礎教育：総合基礎教育を通して、総合的な見方、心理学の基礎、隣接分野の基礎、社会における課題を幅広く集中的に学んでいる。
- ④知識と技能の学習：心理学概論、福祉心理学、心理学実験、心理学研究法、心理検査法実習等の科目を通じて、心理学の代表的な知識と基本的な技能を学んでいる。
- ⑤実践の理解：心理実践活動論や心理学実践研究実習等を通じて、実践について理解を深めている。
- ⑥履修コース：自分の学びたいことに合った履修コースを選んで、それぞれのコースの内容を深く学んでいる。
- ⑦隣接領域：心理学だけではなく、福祉、教育、保健医療、産業・労働、司法・法務等についても幅広く学んでいる。
- ⑧心理学に限定されない資格：心理学に直接関係するものではないが他学科や学内での学びで得ることができる国家資格または認定資格、検定、免許を得られるように学んでいる。
- ⑨心理学関係の資格：心理学関係の国家資格または認定資格・検定を得られるように学んでいる。
- ⑩知識・技能と職業能力の結びつけ：心理学の知識と技能を職業能力につなげるために、実学臨床教育、地域共創実学教育、ボランティア活動、インターンシップ、各種学外実習、課外活動等の社会活動経験に取り組んでいる。
- ⑪心理学の学びを活かした仕事：リエゾンゼミⅠ～Ⅳや心理実践に関する科目を通じて心理学と社会とのつながりや職業倫理について考え、授業内外の学科のガイダンスやセミナーを通じて心理学の学びを活かした仕事について学んでいる。

各項目について1～6（全くそう思わない～非常にそう思う）の選択肢とした。得点化した平均値の結果が以下の図である。なお、回答者数は1年生117名、2年生31名、3年生48名、4年生54名、学科全体で250名であった。ほぼすべての項目において評定値は4（ややそう思う）から5（そう思う）の範囲内にあり、総じて自身の学びの姿勢を良好に捉えているといえるだろう。また、「基本的スキルの育成」「実践の理解」「履修コース」「知識・技能と職業能力の結びつけ」では1・2年生よりも3・4年生が高い評定値を示しており、学びを実践につなげていくことが学年が上がるにつれて意識されていくことが示されたと考えられる。心理学関係の資格については、2018年度入学者より「公認心理師」に対応したカリキュラムになり、この資格取得に向けては1年生から意識的に授業を選択し学んでいくことが必要となり、どの学年でも資格を意識した学びが行われるようになったため学年差が示さなくなったと思われる。

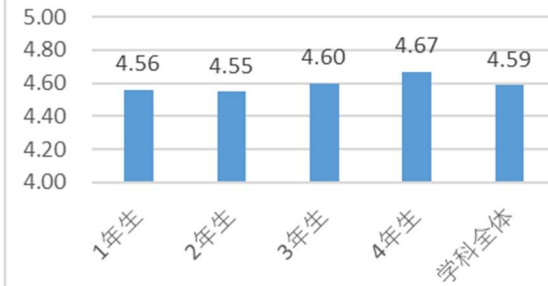
基本的スキルの育成



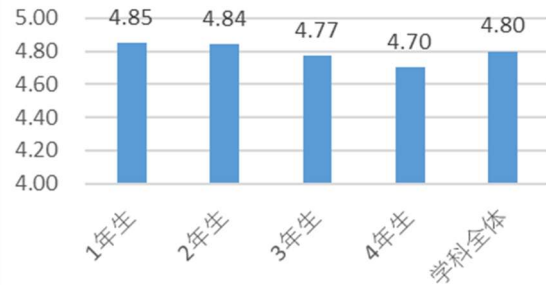
人間関係づくり、心身の健康



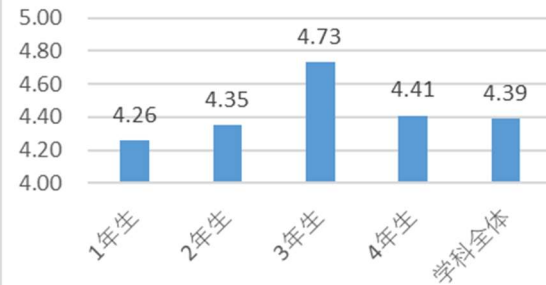
総合基礎教育



知識と技能の学習



実践の理解



履修コース

